

2006年度 第4回幹事会議事録

議題1 / セミナー実行プロジェクトについて

●日時
2006年11月25日(土)
15:00~17:00

●場所
阿佐ヶ谷美術専門学校内

●出席者
秋元圭一 [会長]
日野 高 [副会長]
甲斐光省 [副会長]
三好耕之 [常任]
藤川正美 [常任]
西田一成 [常任]
大村政幸 [常任]
浜村圭一 [常任]
松岡和彦 [常任]
小山 弘 [常任]
角谷祥子 [常任]
永吉昭浩 [会 員]

●委任欠席 (カッコ内→代理人)

菊池 満
白石龍子
勝山昌幸
宮川洋之
富澤和治

常任出席者 11名
委任欠席者 5名
定足数成立

●議事進行
議長・進行：秋元圭一

●議事録
書記：坂井由実
校正・制作・文責：
秋元圭一・小山 弘

■議題
議題1
セミナー実行プロジェクトについて

議題2
来年度の活動計画について

議題3
その他

実行委員長の西田氏から、篠原先生のセミナーについての結果報告があった。当日の出席者は、同窓生34名、在校生17名、関係者14名の総数65名で、目標予定人数の90名には達しなかったが企画的には成功したのではないかと述べた。今回の進行記録、内容についての報告は書類化することとCD-ROMにデータとして残し、決算時まで提出するとも述べた。

続いて大村氏がセミナーの映像と画像関連は作業途中であると伝え、「(秋元)動画(ビデオ)の編集については準備部分などは入れなくていい。映像も画像も内容をかいつまんだものを掲載しては」との意見に対し「(大村)どういう形にするか、一人では判断しにくいので、編集したのを見てもらって意見は欲しい。もしくは全く編集しないで載せるべきか」と述べ、「(松岡)それはセミナー実行プロジェクトのメンバーが決めてもよいだろう」と答えた。

当日のセミナーの様子については、「(浜村)初めての取り組みで当日まで不安だったが、全体の雰囲気良く内容も良かった。参加者も前向きな人達が集まってくれた。問題点としては終了の仕方を工夫すべきだった。また、一人何人かの同窓生を連れてくるなどのノルマがあったほうが人数も集まり、そこからのつながりも生まれてこれからの展開に生かせるだろう。また、セミナー終了後の懇談パーティーの中でCMをやったのも良かった」との意見があった。

今後の意見として「(松岡)asabi bridgeはセミナー専門ではなかったはずだが、今はセミナーに特化されている。これから進めていくにしても明確にしてもらいたい。また、セミナー後に打ち上げなどで経費を使うのは問題がないのだろうか」と述べた。これに対し「(秋元)asabi bridgeについてはセミナーに特化しているつもりはない。今回は次につなげる為の実績を出したまで。セミナーについてはまた別にチームを作るかもしれないし、他の企画も考えていきたい。経費については、打ち上げなどに費用を使う事が有効であるなら皆さんに聞きながら決めてやっていきたい。交通費などはっきりしている部分はもちろん支払うが、人件費(セミナー司会などの)はまだ明確にはなっていない」と答えた。

この返答に対して「(松岡)人件費ははっきりした上でやっていけるといい。企画内容については皆さんの合意が重要」「(日野)作業に対する対価はセミナーなどで払う謝礼をベースラインとして考えるといいのではないか」などの意見が出た。

議題2・3 / 来年度の活動計画について・その他

大村氏から「自分の仕事をしながら同窓会のことをやると仕事にしわ寄せが来る。極端な例であるが4年に一度の総会&パーティーのみに限定していくことも考えられないか」との意見が出た。これに対し「(秋元)やれる範囲でやってほしい。責任を全て背負うのではなく、他人に任せのも一つの方法である。内容についてはまたそれぞれ話し合って進めて欲しい。その他に若い会員との接点がなくなってきているのも問題だ」と答え、若い会員との接点についても議論が進んだ「(角谷)20代は自分の事で忙しい。少したって落ち着いた時に同窓会があれば参加するだろう。先生方が同窓会に参加していれば自然と生徒も同窓会に参加する」「(日野)卒業したら同窓会があるという認識をもってもらうことが大事。顔を出したくなるような魅力のある同窓会であるべきだから総会のみではいけない」「(秋元)いつも同じ年代の企画では駄目。セミナーの人選にしろ下の年代からおしあげていく方向性であるべき」など、来年度以降の活動について、全体のまとめとしての意見が出された。

次回日程：1月27日(土)の15:00~17:00という事と、その後に新年会を予定している事を確認して会議は閉会した。